

e ラーニング用漢字教材の開発

SELF-LEARNING MATERIALS OF DAILY KANJI CHARACTERS

許夏玲・谷部弘子・島田めぐみ

東京学芸大学

HUI Harling, YABE Hiroko, SHIMADA Megumi, Tokyo Gakugei University

Abstracts: The self-learning materials of daily kanji characters are designed for those Japanese learners who have no Japanese knowledge ~ elementary level. Since the content and the time of Kanji lessons are limited in some sense, it will be useful to have a self-study computer database of Kanji characters so that learners can study or revise Kanji anytime and anywhere. Besides the Kanji used in academic field, the learning of kanji characters used in daily life is also very important and useful to elementary Japanese learners.

キーワード : e ラーニング 自習教材 日常漢字 使用場面 視聴覚効果

1. 教材開発の経緯

東京学芸大学では、2006年より e-Learning サービス(「WebClass」)を開始した。「WebClass」を活用することにより、教員は受講者に対し Web 上で教材や資料を事前に配布したり、課題の指示や受付、管理、フィードバックをしたりすることができる。受講者の側からは、いつでもどこからでも授業資料を取り出し、予習・復習することができ、教員に質問したり受講者間の意見交換をしたりすることもできる。留学生センターでは、この e-Learning プロジェクトの一環として、本学留学生(および留学予定者)対象の漢字教材コンテンツを作成することとした。

2. 教材開発の目的

本学留学生センターでは、「日本語研修コース」の名称で主に日本語未習者のための集中予備教育を行っている。国費の研究生および教員研修留学生が主たる対象である。彼らは専門分野によっては英語で研究活動をすることも可能であり、漢字習得の必要性は異なるが、日常生活では一様に様々な場面で漢字理解の必要に迫られている。また、英語による短期留学プログラムの開設以来、海外協定校からの日本語未習の交換留学生も年々増えている。非漢字圏の初級日本語学習者にとって、漢字学習における困難点はそれぞれ異なると考えられる。しかし、限られた授業時間内では新出漢字の学習だけで時間が過ぎてしま

いがちであり、個々のニーズに対応することは難しい。年齢や学習スタイルによっては通常のクラス形態での学習が苦手な学習者もいる。また、比較的長期間での学習を前提とした漢字教材を使った場合、学習の初期段階で、学んだ漢字知識がどのような場面で生かされるのか実感しにくいという側面もある。学習の初期段階で、学習者の漢字学習の意欲をいかに高めるかが、漢字教育の重要な課題である。

漢字の個別学習に対応したCD-ROM教材やインターネット教材はすでにさまざまに開発が行なわれているが、本教材の開発にあたっては、学習者の身の回りの漢字標示に目を向けさせ、視覚的な場面や文脈の中で漢字語の意味を理解していくことで、漢字への抵抗感をなくすことを第1の目的とした。その意味で、本教材は個々の漢字の形や意味、読み方を学ぶという汎用性よりもむしろ学習者にとっての親密性を優先したものである。IT教材は、学習者が課外の時間を有効に使って自由に自習することができるだけでなく、画像や写真、音声を取り込むことが容易なため、視覚効果および聴覚効果が高く、漢字学習に効果的だという利点がある。さらに、e-Learningシステムを活用することによって、学習者自身が出会った漢字語について質問したり、写真ファイルを送ったりすることによって教材を共有し拡張していくことも可能である。

3. 教材内容と構成

本教材は東京学芸大学やその周辺を中心に、留学生が来日後に出会うであろうと想定される日常の漢字場面によって構成されている。これらの日常場面は、「駅」「大学構内」「国際課」「食堂」「生協」「保健管理センター」「図書館」「宿舎」「銀行」「携帯電話」の10課に分けられている。それぞれの課には、その場面において理解することの必要性が高いと判断された漢字語彙を導入した。各課のフロントページには、その課で扱う漢字語彙が置かれている環境がわかるような写真、すなわち、東京学芸大学とその周辺で学生が実際に目にする漢字標示の写真と並べた。写真部分をクリックすると、該当漢字語の拡大写真とそれぞれの語および漢字の意味を理解するための英語による解説ページが現れる。その他、該当漢字語の読み方の音声、学習した漢字語の意味理解を確認するための応用練習 (QUIZ) が設けられており、学習者が日常生活で目にする漢字語彙の音、意味、使用場面を視覚的および聴覚的な刺激を受けながら効果的に学習することが期待できる。

4. 今後の課題

今後、本教材は英語版のほか、ミャンマー語、ポルトガル語等の言語で解説をつけ、来日前にもアクセスできる体制をとることを計画している。なお、できあがった教材は一部の留学生を対象に試行し、アンケート調査を行い、必要な改善を加える予定である。